



平成31年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年8月8日

上場会社名 株式会社 ハークスレイ
 コード番号 7561 URL <http://www.hurxley.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 青木 達也

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部部長 (氏名) 芝田 浩実

TEL 06-6376-8088

四半期報告書提出予定日 平成30年8月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	11,617	0.2	228	32.6	322	19.3	159	21.7
30年3月期第1四半期	11,596	3.5	172	3.2	270	0.3	203	38.3

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 118百万円 (48.1%) 30年3月期第1四半期 228百万円 (64.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	16.96	16.94
30年3月期第1四半期	21.66	21.63

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第1四半期	36,085	19,866	55.0	2,114.98
30年3月期	36,379	19,917	54.7	2,120.35

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 19,857百万円 30年3月期 19,907百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		17.00		18.00	35.00
31年3月期					
31年3月期(予想)		17.00		18.00	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	23,000	0.0	350	65.0	500	3.0	430	8.1	45.80
通期	48,000	3.5	800	27.5	1,300	15.3	1,000	59.7	106.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期1Q	11,025,032 株	30年3月期	11,025,032 株
期末自己株式数	31年3月期1Q	1,636,234 株	30年3月期	1,636,234 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期1Q	9,388,798 株	30年3月期1Q	9,384,449 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載してありましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位をもって記載することに変更いたしました。

なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第1四半期連結累計期間についても百万円単位に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米中欧の貿易摩擦問題等による海外経済の不確実性や為替・株式市場の不安定さへの懸念は残るものの、企業収益や雇用・所得環境の改善などにより穏やかな回復基調で推移しましたが、当社グループが属する「食」の分野では、外食・中食といった業種・業態の違いを超えた競争の激化、雇用環境の改善の一方で労働需給のひっ迫に伴う人件費の上昇などにより、引き続き厳しい競争環境となっております。

このような環境の中、当社グループは、「食に対する安心、安全」へのこだわりをビジネスの中心として据え、多様化するお客様のニーズに応えるべく商品力・企業価値の向上のための強化につながる新商品の開発とともに、利用機会の拡大のためのアピールを行い、また、店舗のQSC（Quality、Service、Cleanliness）のさらなる向上のための店舗従業員研修を進め、当社サービスへの信頼感の向上に取り組み、利益の向上に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高116億17百万円（前年同四半期比0.2%増）、営業利益2億28百万円（同32.6%増）、経常利益3億22百万円（同19.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1億59百万円（同21.7%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、前第2四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

①持ち帰り弁当事業

持ち帰り弁当事業においては、地域の皆様の豊かな食生活に貢献する「わたしの街の台所」として、手作りによる家庭の温もり、まごころ、安心感をお届けする信頼の食を追求しております。

4月は「昼は日替り、夜はミックス」のキャッチフレーズを掲げ、「牛焼肉ミックス」を新発売しました。漫才師の中川家に加え、登美丘高校ダンス部OGによるダンスユニットで話題性のあるテレビCMを展開し、大変ご好評をいただきました。5月には新商品として「おろしうどん」シリーズを販売開始し、揚げたての天ぷらと一緒に召し上がりいただける仕様でご飯とのセットメニューも発売し、ご好評をいただいております。6月には「働く女性を応援」をコンセプトに、「ノーキッチンDay」企画をスタート。働き方改革を背景に、ほっかほっか亭として毎日の献立や家事をサポートしたいという想いから、「週に一度はノーキッチンDay」を提唱し、気軽にご利用できるメニューや企画を展開しております。日替りシリーズには母さん弁当をより豪華にした「日替り母さん御膳」を追加し、「映画おかあさんといっしょ はじめての大冒険」プレゼントキャンペーンを実施しました。

また、お客様とのコミュニケーションをより密接なものとするべく「ほっかポイントアプリ」を6月にリリースするなど、さらなるほっかほっか亭ブランドの価値を高める取り組みを継続的に行なっております。

この結果、持ち帰り弁当事業の売上高は45億14百万円（前年同四半期比1.9%減）、営業利益は3億2百万円（同13.1%減）となりました。

②店舗委託事業

店舗委託事業においては、テナントオーナーのニーズを的確に捉え、企業価値を向上するために、自社運営サイトである「店通(てんつう)」を通して店舗業界に対する当社ブランドの浸透と当社サービスへの信頼感の向上に取り組む一方、三大都市圏を中心に優良物件を積極的に仕入れ、不採算店舗の解約等による物件稼働率の向上を図り、利益の向上に努めてまいりました。また、既存ビルから飲食ビルへのコンバージョンや新築物件のマスターリース等により、資産価値の向上についても推進してまいりました。

この結果、店舗委託事業の売上高は62億15百万円（前年同四半期比2.9%増）、営業利益は1億81百万円（同44.1%増）となりました。

③店舗管理事業

店舗管理事業においては、ビルオーナーのニーズを的確に捉え、資産価値を向上するための各種サービスを積極的に展開し、提供するビル管理契約及び関連サービスを通して当社サービスの浸透を図り、収益機会を増やすことに注力してまいりました。また、管理受託物件数は、28棟（前年同期19棟）と増加しましたが、一方で一部物件の空室による影響などにより、売上高、営業利益ともに前年同四半期を下回って進捗しております。

この結果、店舗管理事業の売上高は1億54百万円（前年同四半期比2.3%減）、営業利益は86百万円（同10.4%減）となりました。

④フレッシュベーカー事業

フレッシュベーカー事業においては、新商品「匠-たくみ-」の開発に注力し、商品のブラッシュアップを積極的に進めたほか、ご好評いただいている「サンドイッチ」や「チキン南蛮バーガー」をはじめとする惣菜商品の販売強化に努めてまいりました。

この結果、フレッシュベーカー事業の売上高は3億33百万円（前年同四半期比10.6%減）、営業損失は11百万円（前年同四半期は営業損失50百万円）となりました。

⑤その他の事業

物流関連事業においては、配送・製造・グループ外企業向け販売等にとどまらず、食材や惣菜等の企画・原料調達から生産・流通・販売に至るまでの包括的な物流改革を一括して請負い、物流効率化にも貢献できる3PL

（Third-party logistics：サード・パーティー・ロジスティクス）企業としての確立を目指しております。

また、前連結会計年度に取得した食品安全マネジメントシステムの国際規格であるFSSC22000は、当社の食品安全の仕組みを証明する強力な武器となり、顧客からの信用と信頼を獲得し、販路拡大に寄与しております。

この結果、その他の事業の売上高は3億98百万円（前年同期比6.4%減）、営業利益は13百万円（前年同四半期は営業損失20百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当連結会計年度末における総資産は360億85百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億94百万円減少しました。これは主に現金及び預金が減少し、借地権が増加したことによるものです。

負債合計は162億18百万円となり前連結会計年度末に比べ2億43百万円減少しました。これは主に借入金が増減したことによるものです。

純資産は198億66百万円となり前連結会計年度末に比べ50百万円減少しました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上、剰余金の配当及びその他有価証券評価差額金の減少によるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、平成30年5月9日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,663	6,957
受取手形及び売掛金	1,614	1,470
商品及び製品	610	729
原材料及び貯蔵品	81	84
その他	859	929
貸倒引当金	△16	△18
流動資産合計	10,811	10,152
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,278	5,322
機械装置及び運搬具（純額）	292	347
工具、器具及び備品（純額）	219	232
土地	10,918	10,918
リース資産（純額）	11	8
建設仮勘定	32	28
有形固定資産合計	16,751	16,857
無形固定資産		
のれん	12	10
その他	137	523
無形固定資産合計	150	534
投資その他の資産		
投資有価証券	2,266	2,191
長期貸付金	14	14
敷金及び保証金	5,617	5,639
繰延税金資産	384	315
長期未収入金	593	587
その他	427	426
貸倒引当金	△638	△633
投資その他の資産合計	8,665	8,541
固定資産合計	25,567	25,932
資産合計	36,379	36,085

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,275	2,152
短期借入金	769	752
1年内返済予定の長期借入金	2,166	872
未払金	826	952
未払法人税等	212	99
未払消費税等	83	113
賞与引当金	139	234
その他	1,724	1,733
流動負債合計	8,197	6,910
固定負債		
長期借入金	3,539	4,567
退職給付に係る負債	33	32
長期預り保証金	4,129	4,150
資産除去債務	349	356
その他	212	201
固定負債合計	8,264	9,307
負債合計	16,462	16,218
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,036	4,036
資本剰余金	3,980	3,980
利益剰余金	14,121	14,111
自己株式	△2,299	△2,299
株主資本合計	19,839	19,829
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	67	27
その他の包括利益累計額合計	67	27
新株予約権	9	9
非支配株主持分	—	—
純資産合計	19,917	19,866
負債純資産合計	36,379	36,085

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第1四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自平成29年4月1日 至平成29年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自平成30年4月1日 至平成30年6月30日）
売上高	11,596	11,617
売上原価	9,083	9,064
売上総利益	2,512	2,552
販売費及び一般管理費	2,340	2,323
営業利益	172	228
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	3	15
受取賃貸料	46	44
業務委託解約益	30	36
持分法による投資利益	7	—
その他	34	43
営業外収益合計	123	141
営業外費用		
支払利息	8	6
賃貸費用	8	8
業務委託解約損	1	0
持分法による投資損失	—	22
その他	6	10
営業外費用合計	24	47
経常利益	270	322
特別利益		
固定資産売却益	26	—
受取補償金	9	34
事業分離における移転利益	50	—
その他	0	3
特別利益合計	86	37
特別損失		
固定資産除却損	7	17
減損損失	59	9
その他	1	2
特別損失合計	69	29
税金等調整前四半期純利益	287	330
法人税、住民税及び事業税	106	90
法人税等調整額	△21	81
法人税等合計	84	171
四半期純利益	203	159
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	203	159

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	203	159
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21	△26
持分法適用会社に対する持分相当額	3	△14
その他の包括利益合計	25	△40
四半期包括利益	228	118
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	228	118
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(表示方法の変更)

(四半期連結損益計算書)

コインランドリーサービスの収益及び費用については、従来、「営業外収益」、「販売費及び一般管理費」及び「営業外費用」として表示しておりましたが、コインランドリーサービスの展開を開始したことを契機に、その実態をより適切に表示するため、当第1四半期連結会計期間より「売上高」及び「売上原価」に含めて表示する方法に変更いたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第1四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた16百万円は、「売上高」16百万円、「販売費及び一般管理費」に表示していた4百万円、及び「営業外費用」の「その他」に表示していた0百万円は、「売上原価」5百万円として組み替えております。